

協会・総務 NEWS

第49回 通常総会が開催される

当協会の平成14年度の事業計画並びに収支予算を決定する第49回通常総会が平成14年3月6日に新潟市万代「ホテル新潟」を会場に開催されました。当日の出席者は会員160名中、本人出席30名、委任状出席109名でありました。

総会は五十嵐会長の挨拶に始まり、来賓の県農林水産部畜産課長・帷子功氏より挨拶を戴きました。五十嵐会長挨拶では、特に国際化の進展や産地間競争の激化により畜産物価格低迷が著しいことに加え、BSE（牛海綿状脳症）の発生など、家畜疾病の発生が畜産物価格への影響のみならず、食べ物としての安全性に対する懸念から社会的に大きな影響を及ぼしているため、当協会においては、厳しい畜産情勢を踏まえ、行政機関、関係団体と連携を図りながら、主要業務である経営診断や情報の提供の強化、家畜畜産物の価格安定対策、疾病発生予防及び畜産物の安全対策等について効果的に事業推進をはかり、より良いサービスの提供を通じて畜産農家の経営安定に努める等挨拶を行いました。

続いて、平成14年度事業計画及び収支予算、平成14年度会費の賦課、平成14年度預入並びに借入金融機関決定、平成14年度借入金最高限度額決定、役員報酬の決定、理事の補欠選任、肉用子牛業務規程の一部改正、附帯決議の8つの議案について審議され、いずれの議案も原案通り承認されました。



畜産・酪農危機突破新潟県要請集会在開催される。

平成14年2月8日に県民会館小ホールにおいて、県内各地より畜産経営者、関係者等300余名の出席を得て、新潟県要請集会を県農協中央会、関係7団体とともに開催しました。

昨年、9月に国内で初めて確認されたBSE（牛海綿状脳症）は国内の牛肉価格の暴落と低迷を招き、畜産史上かつてない混乱と生産現場には多大な打撃を与えています。屠畜牛の全頭検査をはじめ生産、検査、流通、消費段階に渡って対策を進めてきていますが今だ消費回復には結びついていません。

このような厳しい危機を乗り越えるべく牛肉の需要回復を信じ、経営改善と安心、安全、新鮮な牛肉並びに牛乳生産に日々取り組んでいます。このたび、農家自らが牛肉の消費拡大運動をすすめるとともに地産地消の観点から、消費者へのPR活動や学校給食へ積極的に働きかける等を決議し、BSE対策の充実・強化に対する要請を新潟県知事、新潟県選出の国会議員並びに自由民主党新潟畜産議員連盟の県会議員の方々に行いました。



優秀畜産表彰会開催

「にいがた畜産ビジョン推進運動」の一貫として優秀畜産表彰会が新潟県畜産振興協議会の主催により1月30日(水)に新潟市のハミングプラザで開催されました。

当日は、午前中に優秀畜産表彰と受賞者3名による事例発表が、また午後からは2名の県外講師を招いて「にいがたブランド和牛生産拡大推進事業」に係る講演会が行われ、多くの参加者が真剣に聴講されました。今回表彰された方々は次の3経営、1組合であり、概要は以下の通りです。

(優秀賞)

酪農経営 水落 岳人氏(十日町市)
肉用牛経営 石山 正博氏(新発田市)
養豚経営 斎藤 春敏氏(巻 町)

(奨励賞)

貝屋生産組合(加治川村)

(酪農経営：水落岳人氏)

酪農と自家産の交雑種肥育を取り入れた経産牛30頭規模の乳肉複合経営であり、4人家族労働力を最大限に活用して、収益性の高い経営を確立している。特に、飼養管理面において、様々な創意工夫を凝らし、経産牛1頭当たり産乳量9,679kgという高能力牛群を整備しており、さらに、環境保全面においても、地域の耕種農家と共に堆肥利用組合を設立して、有機質の地域内循環システムを確立し、地域農業の活性化に向け大きな貢献を果たしている。

(肉用牛経営：石山正博氏)

水稲8.5haと交雑種肥育60頭規模の複合経営であり、日々のきめ細やかな牛舎内換気や万全の衛生対策によりDG1.03kg、格付3等級以上率87.5%という高い成果を上げている。また、河川敷を活用した自給粗飼料生産や地域の生活環境に配慮した堆肥舎

での良質堆肥の生産・販売(バラ・袋詰)により収益性の向上や耕畜連携強化を図っている。さらに、地域では指導農業士、農協理事として地域農業振興に尽力している。

(養豚経営：斎藤春敏氏)

水稲2.9haと種雌豚60頭規模の一貫経営であり、日々の作業内容を記録した管理日誌をもとに基本に忠実な飼養管理を実践している。繁殖豚については、系統豚「ニホンカイ」をベースとした自家育成豚を母豚として利用し、年間換算離乳豚数24.3頭という高い技術を有している。また、畜舎内環境を一定に保つために、細霧システムと大型換気扇を利用した独自の空調方法を開発する等、様々な創意工夫が見られる。さらに、飼料への木炭粉末、飲み水への木酢酸の添加により抗生物質等の薬品をほとんど使用しない安全な豚肉生産に努めている。一方、地域活動にも積極的に参画し、地域農業振興の中核的役割を果たしている。

(貝屋生産組合)

集落の農地を集積して効率的に飼料イネを栽培する体制をいち早く整え、水田を活用した稲ホールクロップサイレージの生産・供給体制を整備している。平成12年度は2.5haの水田に「ひとめぼれ」を作付し、10a当たり831kgの乾物取量を上げ、近隣の4戸の酪農家に販売している。今後、地域における耕種農家と畜産農家の連携強化により、堆肥等を活用した土づくりの推進が一層期待される。

